

## 4月までに20万筆へ！ ジャンプアップ集会

「ヒバクシャ国際署名岩手の会」は18日、盛岡市の県水産会館5階ホールで「ジャンプアップ集会」を開催。降雪、厳寒の中150人が参加しました。集会への連帯メッセージが達増知事、佐々木県議会議長をはじめ13首長、3議長から寄せられ、結成して一年、県民的運動の広がりを実感できました。集会では、NPT再検討会議準備委員会開催の4月までに20万筆（あと5万3千）を集めることを全員で確認し合いました。



### —150人の参加者が、核兵器廃絶と県民運動の広がりを決意し合う—



日本被団協事務局次長の和田征子さんは、パワーポイントを使いながら記念スピーチをしました。和田さんは、一才の時長崎で被爆。母親から聞いたその当時の生々しい様子を紹介しながら、「恐ろしい原爆・核兵器は二度と使わせてはならない、の強い思いで生きてきた」と話し、これまでの草の根の運動が歴史を動かしてきたこと、核兵器禁止条約が昨年国連で採択されたこと、その条約にも触れ、今後の運動の大切さを話されました。パチカン市国「国際会議」で被爆者としての思いをスピーチした様子やローマ教皇への謁見、署名のお願いも紹介しました。



「ジョー・オダネル氏との出会い」をテーマにスピーチをした山崎真さんは、アメリカの従軍カメラマンとして広島・長崎などを撮影した故ジョー・オダネルさんとの出会いや、「焼き場に立つ少年」「グランド・ゼロ(爆心地)」などの被爆写真は、彼の本来の任務でなかった。日本で入手した私用の写真機で撮り、トランクに入れて45年間も封印してきたことを紹介。そして1992年、盛岡市善隣館で日本初の写真展を開催した様子や、今でも全国から写真展を開きたいと声がかかることも紹介されました。



取り組みの報告では、新日本婦人の会岩手県本部若山さんと日本民主青年同盟県委員会の藤倉君が街頭や店舗、高校門前での署名行動の経験を報告。対話の大切さを強調し、20万筆めざし全力をあげることを決意しました。



盛岡三高2年の野里さんは、高校生平和大使としてジュネーブの国連欧州本部を訪問した様子を報告。「私たちは微力だが無力ではない」の訴えに共感と感動の拍手が会場を包みました。

#### 《参加者の感想:22通の中から》

- 若者に励まされた集会でした！和田さんのお話しは、おだやかながらも、強い芯、志を感じました。草案ができるまでの一刻、一刻が伝わってきました。長い、長い間、たたき続けた厚い重い扉が、少し開いた気がする…というお話が心に沁みました。オダネルさんの写真と山崎さんとのつながり、「焼き場の少年」（ローマ法王の心を動かした写真）の話しが心に残りました。山崎さんが一度退きながらも、再び動き出した熱い心に、心が動かされました。取り組み報告に励まされました。日々の仕事の忙しさに、ついつい後回しになっていた自分ですが、再びがんばりたいと思いました。シールを貼る署名をすすめながら対話している活動がすごい。高校生平和大使のスピーチ感動！キーワード：多様性…話し合い…とても力強くすばらしかった！
- 初めての参加でしたが、残酷な写真、お話しを知り、ショックでした。やはり核兵器のない世界が必要だと思いました。いろいろな団体が取り組みをしていることを知りました。私も、少しでも協力できたらと感じた集会でした。
- 高校生平和大使の報告に感激。「署名行動を通じて、人々に訴え、働きかけることが大事なのだ」—全くその通り！若い高校生から教えられ激励されたことで、これからの活動のエネルギーをもらった！

★署名の集約を4月15日に行いますので、集めた署名用紙を届けて下さい。また、本部に届けた団体は数の報告をお願いします。